

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人花山星空ネットワーク
評価実施年月日	2024 年 6 月 21 日
評価者氏名（職名）	太田 耕司 （京都大学大学院理学研究科教授）
評価対象年度（期間）	2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

（1）事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成（総会・理事会等）に沿って策定しているか。	☒	☐	☒	☐
② 法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	☒	☐	☒	☐

イ 法人の目的を達成するための事業を主たる事業として実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
☒	☐	☒	☐

→ 法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項 目			法人全体の労力のうち 各項目が占める割合 (※1)
事業 (※2)	主たる事業	第1位：天体観望会事業	30%
		第2位：天体観測体験教室	25%
		第3位：刊行物やHPによる情報発信事業	15%
		このほかの事業	10%
	主たる事業以外の事業		—%
事業以外（管理部門等）			20%

※1 例：総従事時間数に占める各事業及び事業以外（管理部門等）への従事時間数の割合（表の合計は、100%となる。）

※2 実施している事業の数の関係などで、「主たる事業」の「第2位」、「第3位」、「このほかの事業」欄及び「主たる事業以外の事業」欄に記入する内容がない場合は、「—」を記入

（2）組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	☒	☐	☒	☐
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	☒	☐	☒	☐
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	☒	☐	☒	☐

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】 定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	☒	☐	☒	☐
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	☒	☐	☒	☐
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	☒	☐	☒	☐

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか（予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか等）。	☒	☐	☒	☐
② 監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	☒	☐	☒	☐
③ 監事は定款に定める職務を執行しているか。	☒	☐	☒	☐

（３）情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	☒	☐	☒	☐
② 活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	☒	☐	☒	☐
③ 法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧することができる状態か。	☒	☐	☒	☐
④ 事業報告書等の記載内容は、外部に対して理解してもらえるように工夫※して作成されているか。	☒	☐	☒	☐

※ 例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

（４）コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	☒	☐	☒	☐
② 重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	☒	☐	☒	☐

※ 対象となる法令：特定非営利活動促進法、登記に関する法令（組合等登記令）、税に関する法令（法人税法等）、労務に関する法令（労働基準法等）、事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供の場合は、介護保険法）など。

(5) 外部評価について

活動内容を評価し、改善する仕組みを有しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	☒	☐	☒	☐
② 外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	☒	☐	☒	☐

2 法人に対する支援の状況

(1) 寄附について

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 法人の事業活動のため、寄附の募集を行っているか。	☒	☐	☒	☐
② より多くの寄附を受けるための工夫を積極的に行っているか。	☒	☐	☒	☐

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項 目	法 人 記 入
① 寄附の呼掛け対象	当法人会員、イベント参加者
② 寄附を獲得するための取組・工夫（会報誌や法人ホームページで募集、イベントでの呼掛け 等）	会誌に「寄附のお願い」と郵便振込用紙を同封。 ホームページでの募集。 イベント参加者への呼びかけ
③ 評価対象年度における寄附者の人数及び金額	人数： のべ 53 名 金額： 706, 000 円
④ 寄附金の増減及びその理由	評価対象年度の前年度から (大幅増・増・ほぼ増減なし・減・○大幅減) ＜理由＞前年は高額寄附があり、寄附総額が多額となっていた。また、高額寄附者であるシニアの会員が減少した。
⑤ 寄附の獲得に取り組むうえでの課題	会員・イベント参加者以外へも寄附依頼を広げる努力。

(2) 寄附以外の支援について

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 寄附以外に、市民、地域団体、行政等から何らかの支援（ボランティア、法人実施事業への協力、補助金・助成金等）を受けているか。	☒	☐	☒	☐
② ①の支援をより多く受けるための工夫を積極的に行っているか。	☒	☐	☒	☐

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項 目	法 人 記 入
① 支援の概要 (ボランティアの場合は従事人数、従事時間数、従事内容など)	(ボランティアの場合 従事人数：のべ 75 名 従事時間数：491 時間 従事内容：天体観望会で受付・引率・説明)
② 寄附以外の支援を獲得するための取組・工夫	京都市市民活動総合センター及び CANPAN 提供の補助金・助成金情報の取得、子どもゆめ基金からの助成金獲得

③ 寄附以外の支援の獲得に取り 組むうえでの課題	京都市や山科区の行政に「地域活性化事業への補助金」 等支給の設置を要望する。 ボランティアの高齢化を緩和するために若い会員を勧 誘する。
-----------------------------	---

3 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など。

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台の天体観望会などのイベントにボランティアを供給して協力していることと京都大学学生邦楽演奏サークルである「叡風会」と連携して、天体観望会と音楽会を組み合わせるなどの交流を継続して積極的に行なっていることを評価したい。なお、それぞれの行事は天文台と連携して開催されている。

京まなびネット、京都市市民活動総合センター、CANPAN のネットイベント情報に活動募集を投稿している。さらに山科区のアプリ「山科プラス+」に観望会・講演会の掲載を依頼し、地元への浸透を図っている。

新聞各紙に依頼してイベントの案内を掲載している。

会誌「あすとろん」を定期的に年 4 回発行し、法人の活動報告、会員からの投稿などあり、かなり充実していると考ええる。また、法人ホームページにも会誌の PDF 版が掲載され、誰でも閲覧できるようになっているのも良い試みであるが現在 2022 年 3 月号までの掲載なので、最新号を掲載するよう努力して欲しい。

4 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など。

事業報告書・活動計算書・貸借対照表・財産目録がホームページで一般に公開されていて財務管理の透明性が保たれている。

理事会の開催については、2023 年度は第 58 回（4 月 20 日）、第 59 回（7 月 3 日）、第 60 回（10 月 4 日）、第 61 回（11 月 13 日）と 4 回開催され、それぞれの理事会では議事録が作成されていて、理事会は正常に機能していると考ええる。

総会の開催については、第 16 回通常総会が 2023 年 6 月 4 日（日）に開催されている。書面表決者を含む過半数の正会員が出席し、2022 年度事業報告・活動計算書、2023 年度事業計画と活動予算書及び第 9 期の役員が可決承認され、議事録が作成されている。通常総会に先だって監事 2 名が活動計算書及び財産管理について監査を実施した上で、その結果を書面で報告している。

2023 年度財務状況では、大きな赤字となっている。原因は会費収入と寄附金収入が減少し、さらに、人件費が増加したことが原因と思われるので、会員を増やすことと寄附金を増やすことの他に支出を抑えるよう努めて欲しい。

5 法人に対する支援に関する所見

※ より多くの寄附や寄附以外の支援を受けるための工夫をしているかなど。

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金助成金の助成が 2 件あった。
2024 年度も子どもゆめ基金助成金からの助成が決定している。

《評価対象法人記入欄》

6 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
会誌の PDF 版が HP に掲載されているが現在 2022 年 3 月号までの掲載なので、最新号を掲載するよう努力して欲しい。	会誌発行後、早期に HP で公開できるよう努力していきたいと考えている。
2023 年度財務状況では、大きな赤字となっている。原因は会費収入と寄附金収入が減少し、さらに人件費が増加したことが原因と思われるので、会員を増やすことと寄附金を増やすことの他に支出を抑えるよう努めて欲しい。	過年度会費未納入者への会費請求を行っているところである。イベントの定員をコロナ以前に近い数に戻すことで新たな会員の勧誘を行っている。寄附についても会員とイベント参加者に呼びかける一方、総会案内郵送費の削減のため、電磁的方法で招集できるよう定款を変更するなど支出を減らす努力を行っている。

備考（審査委員会のコメント）

会員の維持拡大が、継続的な課題である。前回の審査委員会のコメントでも提言したとおり、会員を継続する動機を分析して、会員増加に繋げていただきたい。

また、事業に参加しなくなった会員であっても、次世代に事業を継続させるために応援したいというケースが想定されるため、応援会員制度など新たな会員制度についてもご検討いただきたい。